

カイツカイブキの葉の先祖返りについて —強い剪定に対して葉が先祖返りする関係性—

藤尾亮

Ryo FUJIO

【キーワード】カイツカイブキ、先祖返り、剪定

1. はじめに

カイツカイブキの研究をしたきっかけは、顧問の先生と話し合っていた時にカイツカイブキの葉の先祖返りの現象を知った。そして、本やインターネットで調べたがカイツカイブキの先祖返りについて研究されていなかったからである。カイツカイブキの先祖返りは、カイツカイブキの葉を強く剪定(切る)したら葉が先祖返りするとされている。また、先祖返りは周辺の葉にも伝染するように先祖返りしていくとされている。この、研究ではなぜカイツカイブキが先祖返りするのか明らかにしたい。

2. 目的

カイツカイブキが先祖返りする理由を調べる。まず、定説にあるカイツカイブキの葉を強く剪定したらカイツカイブキが先祖返りする理由を明らかにしたい。

3. 方法

奈良教育大学附属中学校には、校門付近にカイツカイブキの大きな木が3本ある(図1)。本研究が対象としたカイツカイブキは、図1の左2本である。5月12日から9月まで観察を続けてきた。カイツカイブキに何をしたら先祖返りするのかわかるために、カイツカイブキの葉の一部を切って、その切った部分や周辺から、どのような形が出てくるのかを調べた。

表1 カイツカイブキの葉のタイプ

タイプ	目印の色	各タイプの特徴
A	ピンク色	今までに先祖返りしていない
B	紫色	枝全体が先祖返りしている
C	白色	一度先祖返りしてから戻っている

図1 3本のカイツカイブキ



4. 結果

各実験の結果を表3にまとめた。表3の実験1は、葉を切った部分に変化したものを○、変化していないものを×で示した。また、実験1では、切った枝のうちタイプAの②と⑤が枯れてしまった(図3)。実験2は、実験1の枝の周辺で変化があった場合を○、変化がなかった場合を×にした。

表3 実験結果

実験1	A	B	C
①	×	×	×
②	×	×	×
③	×	×	×
④	×	×	×
⑤	×		×
⑥	×		×
⑦	×		×
実験2	A周辺	B周辺	C周辺
①	×	×	×
②	×	×	×
③	×	×	×
④	×	×	×
⑤	×		×
⑥	×		×
⑦	×		×

図3 実験1で枯れた枝の例



5. 考察

実験1の結果から、タイプA、B、Cすべての枝で、切った部分から再生したり、新しく生えてきたりすることなどの変化がなかった。このことから、カイツカイブキを剪定しても、切った枝は先祖返りしない可能性が高いことが分かった。実験2の結果から、周辺の枝においても先祖返りの変化ははっきり見られなかった。

6. まとめ

- ・カイツカイブキを剪定しても、先祖返りしない可能性が高い
- ・切った葉の周辺が先祖返りすることもなかった